



大切な住まいと家族を守るのは

日々の用心と備えから

建物火災の約6割は住宅火災です

年間発生する建物火災の中で、約6割が住宅火災というデータがあり、その死者数は建物火災全体の約9割を占めています。これから暖房器具を使用することが多くなる季節を迎え、改めて防火意識を高めましょう。

住宅火災の実態は：

全国で建物火災が1年間に何件発生しているか知っていますか。平成18年のデータによると、31,506件でした。そのうち住宅火災は18,326件(58・2%)。また、建物火災によって亡くなられた方は1,297人で、住宅火災による死者数は1,187人(91・6%)にもおよび、特に、65歳以上の高齢者は57・9%(688人)でした。多くの場合、逃げ遅れが原因と考えられています。

火災の出火原因は：

タバコ
住宅火災の出火原因の第1位は、タバコの不始末です。(233件。平成17年データ)

タバコの火は消したつもりでも完全に消えないことがあります。寝室で起きた火災の多くが布団に火がついたことが原因です。

ストーブ

ストーブが出火原因のケースは平成17年で150件でした。カーテンや洗濯物がストーブに触れて火災になることがあります。暖房器具の近くには燃えやすいものや、加熱により膨張し破裂するおそれがあるスプレー缶を置かないことが大切です。

コンロ

火をつけたまま離れて火災になる事例が増えています。近くの物に油がはねて引火し、火災の原因となることがあります。(平成17年には82件)

電気機器

コンセントの差込み口にほこりが溜まっていますか。ほこりが発熱し火災が起きることがあります。コンセントとプラグの間を小まめに掃除しほこりをためないようにしましょう。古くなつた電気

火災警報器の設置を

コードは取り替え、たこ足配線はしないなど日ごろからの管理が防火の基本です。

大切な生命や家財を守るため「住宅用火災警報器」の設置が消防法で義務づけられました。警報音や音声で火災発生を知らせることで、逃げ遅れによる死者数が減ったという調査もあります。火災を防ぐ第一歩は、自己防衛といえます。日ごろからの用心と万全な備えを怠らないことが重要です。

